

問題1

政府において、労働者がそれぞれの事情に応じた多様な働き方を選択できる社会を実現する働き方改革を総合的に推進するため、長時間労働の是正、多様で柔軟な働き方の実現、雇用形態にかかわらず公正な待遇の確保等の措置が進められている。

このような状況を踏まえ、あなたが考える、労働者にとって魅力のある職場、就職先として選択される職場となるための対策を具体的に一つ取り上げ、その理由を明らかにするとともに、その対策を実現する際の問題点と、それを解消又は軽減するための方策について述べなさい。

問題2

次の(1), (2)の問いに全て答えなさい。

- (1) 四方を海に囲まれる世界有数の海洋国家である我が国にとって、海でつながる諸外国と連携・協力を図り、海で発生する様々な問題を円滑に解決することは重要である。

海上保安庁では、各国海上保安機関との連携・協力、諸外国への海上保安能力向上支援等の推進、国際機関との協調などを進め、あらゆる課題に取り組んでいる。

以上のような状況を踏まえ、特にあなたが重要と考える対策を具体的に一つ取り上げ、その理由を明らかにするとともに、その対策を実現する際の問題点と、それを解消又は軽減するための方策について述べなさい。

(2) 東京のはるか南方海上を航行中のコンテナ船Xから、海上保安庁に対して「急病人が発生し、早急に救助して医療機関へ搬送したい」旨の救助要請があった。

救助に出動可能な勢力としてヘリコプターH及び大型巡視船Vがある場合、救助に要する時間など様々な事項を考慮した複数の救助方法を比較の上で、あなたが最善と考える救助方法について述べなさい。

なお、コンテナ船X、ヘリコプターH及び大型巡視船Vの状況は、以下のとおりである。

① コンテナ船X

- ・ 航空基地Aから250マイル(最寄りの港までも250マイル)の海上で停船中(海上保安庁からの指示待ち)
- ・ ヘリコプターが直接離着船できるスペースなし
- ・ 速力:25ノット

② ヘリコプターH

- ・ 航空基地Aで待機しており、搭載燃料量から航空基地Aから200マイルまで進出可能(往復の場合、片道100マイルまで進出可能)
- ・ 特殊救難隊R(洋上でヘリコプターから船舶に降下し、要救助者を吊り上げ救助する部隊)が同乗するが、風速15m/秒を超える場合、吊り上げ救助の実施は困難
- ・ 速力:100ノット

③ 大型巡視船V

- ・ 航空基地Aから150マイル、コンテナ船Xまで100マイルの海上を航行中。航行可能距離に制限なし
- ・ ヘリコプターが直接離着船できるスペースあり。ヘリコプターの燃料搭載可能
- ・ 波高2m又は風速15m/秒を超える場合、ヘリコプターの離着船実施は困難
- ・ 警備救難艇を搭載しており、同艇を降下して他船から要救助者を救助することが可能(波高2m又は風速15m/秒を超える場合でも、救助の実施が可能)
- ・ 速力:20ノット

※ 1ノット=1マイル/時(例「速力:25ノット」は、1時間で25マイル航行することを示す)

※ 海上模様は、低気圧が接近中であり、波風ともに徐々に激しくなっている状況

※ 上記以外に必要な想定があれば、適宜設定することも可とする。